

勝田ヶ丘志学館は、あなたの夢を応援します

勝田ヶ丘志学館館長(前米子東高校長)

山根 孝正 (72期)

〈専攻科廃止後の状況〉

「米東は4年制の高校」かつて専攻科があった時代、一部からこのように揶揄されたこともありましたが、私の高校時代には同窓会館横の木造校舎で、後には北校舎3階で、多いときには120名以上の生徒が学んでいました。私は専攻科がなくなると、生徒はより安全志向となり浪人生は減少するのではないかと予想していましたが、より高い目標を掲げる生徒や高校3年間部活動等に熱心に取り組んだため大学受験の学力が十分には身につかなかった生徒が捲土重来を期して浪人する数に変化はなく、県外予備校で浪人する生徒が増加してきました。

〈NPO法人勝田ヶ丘志学館が発足〉

「受験は団体戦」と言われます。高校時代と同じリズムで学校に通い生活し、高校時代からの仲間とともに切磋琢磨し、時には励まし支え合いながら過ごす1年間は、一人では乗り越えることのできない困難を乗り越えさせてくれるのです。保護者の多大な出費のもと故郷と親元を離れて単身寮生活をしながら浪人生活を送っている生徒が一人でも多く地元に残って頑張りたいと思える学び舎をとの思いから、平成30年9月にNPO法人勝田ヶ丘志学館が設立され、理事長に坂口同窓会長



校名板を掲げる役員(校名板右:坂口同窓会長・左:松村副会長、山根館長)

が、副理事長に松村副会長、秦野PTA会長、田中校長が就任し、同窓会館2階を教室に翌年4月開学を目指して準備に取りかかりました。

〈感動した大学生からの寄付〉

しかし何分にもゼロからのスタートで、教室の整備や機器の購入に必要な資金が全くないため同窓生の皆様へご支援をお願いしたところ、今年9月末現在で延べ1,620名の方からご寄付をいただきました。昨年9月、志学館一期生の同級生で現役合格したある大学生が志学館を訪ねて来てくれ、夏

休みにアルバイトをして貯めたお金のなかから寄付を持ってきました。少ないですけど役立ててください。私は受験の時、志学館が設立されることになったので、もしチャレンジしていただけたら志学館にお世話になるつもりでした。私の挑戦を後押ししてくれたのは志学館です。そのお礼に寄付をさせていただきます」と申し出てくれたのです。志学館は目的の一つとして、「現役生のチャレンジを可能にする」を掲げていますが、このような形で応援も受けたことに感動を覚えました。

〈開学として一期生の進路結果〉

平成31年4月3日、第一期生31名を迎えてスタートを切りました。生徒は制服で登校し、唯一の校則である「学生らしい品格ある行動」のもと、午前8時から午後7時まで志学館で過ごします。生徒一人一人の目標実現に向けた不断の努力と福田副館長(73期)はじめ教職員の熱心な指導により受験結果は以下のとおりでした。

〔国立大〕 東大・京大・北大・九大(3)・大阪府大・奈良女(2)・広大(2)など20名(内医歯学部2名)
〔私立大〕 早稲田(4)・明治(3)・立教・中央(2)・東理(2)・関大・関学・同志社・立命(4)など延べ43名(詳しくは志学館HPに掲載しています。)



英語の授業風景



食堂での自習

〈ご支援のお願い〉
現在ご支援いただく正会員は60名、賛助会員は85名です。法人の運営基盤を確立し、教育環境を充実させるためにもより多くの皆様に正会員、賛助会員としてご入会いただくとともにご寄付を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは、ホームページ(<http://www.shigakkan.jp>)をご覧ください。同総会事務局までご連絡ください。

〈二期生の現況〉

令和2年度はコロナウイルス禍の中、米東同様臨時休校を余儀なくされましたが、第二期生39名が日々学習に励んでいます。初年度は、地歴公民と地学で授業を開講できずネット配信による講座で学習しましたが、今年はずべての科目を開講しました。今後も生徒の皆さんの期待に応えることができよう指導者の確保に努めてまいります。